

平成26年度 農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金共生・対流促進計画（広域ネットワーク推進対策）  
外国人旅行者向けの受入体制の構築事業

## 農山漁村での体験交流活動を世界に ニッポン・グリーン・ツーリズム2014 東京セミナー

日時：2014年7月16日（水） 10時～17時

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

企画・運営：NPO法人日本エコツーリズムセンター

日本本来の暮らしや自然を楽しむ農山漁村での体験交流活動、いわゆる〈グリーンツーリズム〉は、全国各地で取り組まれ、訪問者にとって付加価値の高い体験旅行として、人気が高まっています。地域にとっては、魅力の再認識と資源の活用や雇用の創出につながり、持続可能な地域社会づくりへとつながっています。

一方で、訪日外国人旅行者（インバウンド）の市場は拡大し、期待の高まりを見せています。グリーンツーリズムに取り組む地域には、現状海外からの受入実績が少なく、これから地域のよさを引き出すプログラムづくりやインバウンドのノウハウを取り入れることにより、より多くの外国人旅行者を受入れ、本来の日本を魅力を伝える重要な場となることでしょう。

当センターでは、「地域の自然や文化を活かした交流活動が、地域を元気にする」と考え、エコツーリズム・グリーンツーリズムの実践者・研究者とネットワークを築いてきました。海外からの旅行者を農山漁村などの地域が受け入れることは、交流活動の拡大につながり、地域そのものや農産物などへのファンを増やしていくでしょう。異文化交流が、地域に新しい風を吹き込んでいきます。海外からの評価が国内の再評価につながるなど、さまざまな効果がもたらされると考えています。

今回のセミナーでは、全国の農山漁村で滞在型の体験交流型観光を進めているものの中でも、海外からの旅行者を受入れている先進事例に注目し、今後実践を計画する各地の取組を支援する目的に企画しました。日本本来の魅力を、多くの人と共有したいと考えています。

### ◎グリーンツーリズム、インバウンドの先進事例から学ぶ

体験交流活動の企画・実施に直接かかわり成果をあげている専門家から、グリーンツーリズム、インバウンドの先進事例を紹介いただき、実践に向けてのポイントをうかがいます。

### ◎専門家・実践者と直接話す相談会を会場で開催

同時に、個別の地域での状況や課題について、専門家・実践者へ直接相談する場を設けます。地域でのグリーンツーリズムの展開はもちろん、全国の実践者や地域とのネットワークづくりに、このぜひ機会をご活用ください。

### ◎滞在交流型観光の課題と展望、体制作りのポイントを知る

パネルディスカッションでは、滞在交流型観光の実践者らが、課題やインバウンド導入に向けての展望について話します。同時に、会場の参加者の皆さまからもアイデアを出してもらい、共に検討するワークショップとする予定です。

### ◎セミナー以降研修会とモニターツアーを実施

今回のセミナーは、東京のほか北海道、九州で開催を予定しています。セミナー後は、先進地域を会場に実践的な研修会を3ヶ所、外国人旅行者を対象にしたモニターツアーを全国6ヶ所で開催する予定です。

## ニッポン・グリーン・ツーリズム2014東京セミナー

【日時】 2014年7月16日(水)10:00~17:00 (受付開始9:30)

【会場】 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

【参加費】 無料(定員・先着100名)

【参加対象】 グリーンツーリズムに取り組む自治体、地域協議会、観光協会、宿泊体験施設、NPO団体、田舎で働き隊員、地域おこし協力隊員など、現在グリーンツーリズムに関わる事業を企画・実施・コーディネートし、現在または今後、インバウンド受け入れを行ないたい団体・個人の皆さま

【お申込み・お問い合わせ先】 お名前、住所、性別、住所、ご連絡先電話番号、所属・肩書き、メールアドレスを入力の上、ホームページからお申してください。

事務局 日本エコツーリズムセンター TEL: 03-5834-7966 FAX: 03-5834-7972

ホームページ: <http://www.ecotourism-center.jp/> e-mail: [desk@ecotourism-center.jp](mailto:desk@ecotourism-center.jp)

\*このプロジェクトは農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金共生・対流促進計画(広域ネットワーク推進対策)外国人旅行者向けの受入体制の構築事業です。

### ニッポン・グリーン・ツーリズム2014東京セミナーの講師(予定)

#### ◎基調講演スピーカー・1

「インバウンド観光の現状」(仮)

鈴木克明氏(日本政府観光局海外マーケティング部東アジアグループ次長)

#### ◎基調講演スピーカー・2

「インバウンド旅行ニーズとグリーンツーリズム」(仮)

鈴木宏一郎氏(株式会社北海道宝島旅行社 代表取締役社長)

1965年北九州生まれ。北海道の体験型観光プログラムの検索予約サイト「北海道体験.com」創業。道内各地で観光まちづくり、インバウンドFIT(個人旅行者)送客を実施。同時に都市観光やレジャーと農村をつなぎ、野菜の収穫体験や農家民宿(ファームイン)などグリーンツーリズムを紹介している。観光庁観光地域づくりアドバイザー、北海道グリーンツーリズムネットワーク事務局長、農林水産省6次産業化ボランティアプランナーも務め、北海道の農山漁村の魅力を国内外に伝えている。

#### ◎基調講演スピーカー・3

「新たなグリーンツーリズムの方向性:住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」(仮)

坂元英俊氏(株式会社マインドシェア観光地域づくりプロデューサー)

1954年熊本県生まれ。(財)日本農業土木総合研究所研究員として、全国の農村総合整備計画などの対策にかかわる。その後、(財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長。阿蘇地域1市7町村の広域連携プロジェクトを行政・民間団体などと協働し推進。地域振興と温泉や観光などの既存資源を一体化し、ゆっくり・のんびり過ごすスローな滞在型観光の阿蘇づくり「阿蘇カルデラツーリズム」を国、県、市町村、民間企業と協働して展開。平成23年度に阿蘇くじゅう観光園で「阿蘇ゆるっと博」を開催し、東北観光博のモデルとなる。同年10月、観光庁長官賞を受賞。日本エコツーリズムセンター世話人。

◎パネルディスカッション 上記、基調講演者・鈴木克明氏、鈴木宏一郎氏、坂元英俊氏も登壇。

高野孝子氏(NPO法人エコプラス代表理事)

新潟県生まれ。冒険家。ジャーナリスト。教育学博士(エジンバラ大学)。早稲田大学教授。世界で初めてロシアからカナダまでスキーと犬ぞりとカヌーで北極海を横断するなど、国際的なネットワークの中で環境教育に取り組む。郷里の南魚沼市で「TAPPO南魚沼やまどくらしの学校」を開校し、南魚沼の野外教育、環境教育などの取り組んでいる。著者に「てっぺんから見た真っ白い地球」(ジャパンタイムス社)「世界遺産のいま」(朝日新聞社)ほか多数。

梅崎靖志(NPO法人日本エコツーリズムセンター代表理事)

埼玉県生まれ。環境省田貫湖ふれあい自然塾(静岡県富士宮市)をはじめ、各地の環境教育拠点施設で体験プログラムの開発、人材育成、滞在型交流観光のための仕組みづくりを担当してきた。現在、山梨県都留市の古民家を拠点に「風と土の自然学校」を運営し、パーマカルチャーや自然農の考え方を基本に都市と農村の交流に取り組んでいる。

福井隆(NPO法人日本エコツーリズムセンター理事、東京農工大学)

三重県生まれ。日本の過疎集落の再生を地域の現場で研究・提言をし、多くの実績を挙げてきた地元学の伝道者として知られる。とくに、研究者が研究の成果を地域に残さない傾向に対して、「すべては地域に還元」を信条に全国をめぐる。農林水産省「農山漁村活性化人材支援バンク」コーディネーター。「全国新・田舎で働き隊」のプロジェクトをコーディネート。

## 日本エコツーリズムセンターとは？

「エコツーリズムで地域を元気にしよう！」を合い言葉に、エコツーリズム、地域活性化、環境教育の分野の第一線で活躍する実践者、研究者らが集まった全国ネットワークです。

エコツアーガイドや地域コーディネーターなどの人材育成、地域や事業者への支援を行うと同時に、獣害など地域社会のさまざまな課題の解決を目指した地域のニーズに合わせた多様な取り組みを行っています。

◇名称：NPO法人日本エコツーリズムセンター

◇所在：〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 TEL:03-5834-7966 FAX:03-5834-7972

◇代表理事：梅崎靖志、中澤朋代、森高一

◇設立：2007年8月22日

### ◇主な活動

#### (1)人材育成

エコツアーガイドや地域コーディネーターなど地域でエコツーリズム普及の担い手となる人材を育成します。複雑化する人と野生動物との境界線や課題を踏まえ、野生動物への認識や適切な距離のとり方について正しい理解をもった野生動物インタプリターの育成にも取り組むなど 経験・知識豊かな講師陣とともに、現代の社会状況にあった研修を随時実施します。

●野生動物インタプリター研修(2010年度～)

●エコツーリズム地域コーディネーター養成講習会(2008年度～毎年実施)

#### (2)地域・事業者支援

地域の魅力を引き出し活かすエコツーリズムの推進のため地域にあわせた支援を行います。

#### (3)災害復興支援

当センターのネットワークがもつ災害支援活動ノウハウを最大限に活かし、迅速な支援や復興エコツアーを通じて復興を支援しています。

●RQ市民災害救援センター設立呼びかけと運営マネジメントによるボランティア派遣(2011年3月から11月まででボランティア数のべ約45,000人)

●福島コンセプトワークおよびブックレット「フクシマBOOK」制作

●被災地ソーシャルビジネスノウハウ移転事業(経済産業省補助事業):被災地でのソーシャルビジネスを促進するため、各地にカスタマイズした自然学校マネジメントのノウハウの移植。また都内および被災地で、復興支援を検討する企業を集め、復興ビジネスワークショップを開催。

#### (4)エコツアー保険

加盟団体2014年度66団体。

#### (5)エコツアー

エコツアーの楽しさを多くの人に実感してもらうために、独自のツアーや協賛ツアーを実施。

●野生動物との共生を探る 白神山地マタギといくツアー(2012年1月、9月)

●丹沢 狩猟現場体験ツアー(2012年、2013年11月)

●大人の工場見学(2012年、2013年11月、狩猟捕獲による排皮利用の促進工場の見学会)

#### (6)その他

エコツーリズムに関する最新情報をさまざまな角度から探るシンポジウムや、気軽にエコツーリズムに触れるトークイベント・エコツアーカフェを定期的で開催。

### ◇その他、受託・共催事業実績

●農林水産省 田舎で働き隊！(2009～2011年度)

●神津島エコツアーガイド養成講習会(神津島村商工会、2010～2011年度)

●群馬県みなかみ市エコツアーガイド養成講習会(みなかみ町商工会2009年度、谷川岳エコツーリズム推進協議会2011年度)

●静岡県エコツーリズム調査事業(静岡県2010年度)

●静岡県エコツアーガイド・コーディネーター養成講習会(静岡県2009年度)

●経済産業省補助事業:被災地ノウハウ移転事業(2011～2012年度)

●JICA草の根事業「地域密着型自然学校づくりのための人材育成とネットワーク形成プロジェクト」(2012～2014年度/山水自然保護センター(中国・北京)共同事業)

●南アルプス市コーディネーター養成講習会(2013年度～)

●農林水産省 平成26年度農村共生・対流総合対策交付金「外国人旅行者向けの受入体制の構築」

●地球環境基金「サステナブルツーリズム国際認証制度の日本導入・普及について」(2014～16年度)